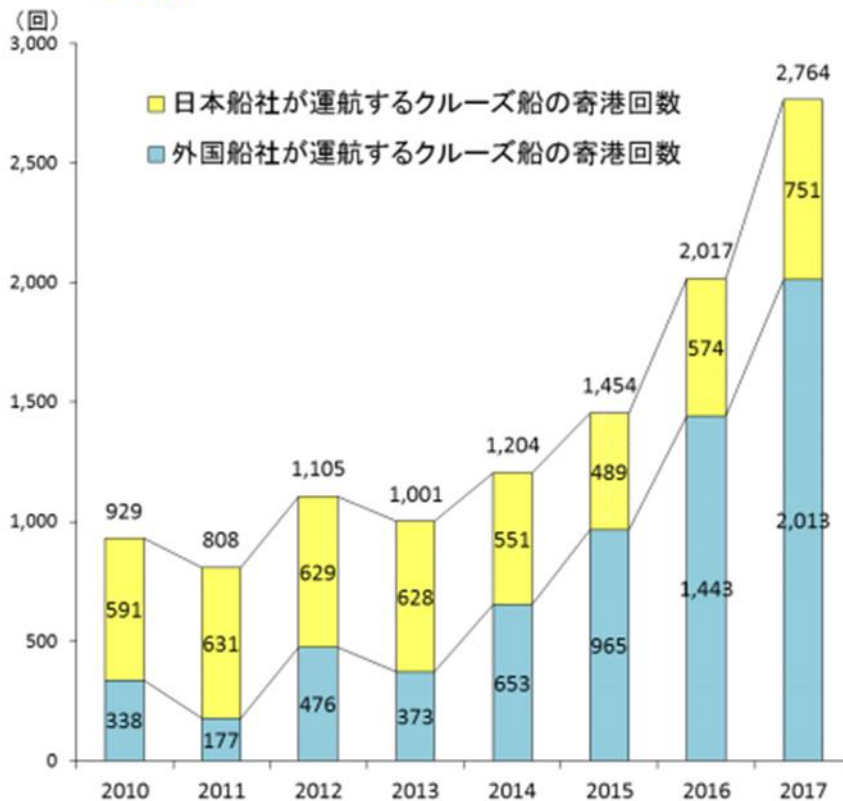


2017年 日本へのクルーズ寄港数、外国人旅客数ともに記録更新

世界的に需要が高まるクルーズ アジアの中で日本は？

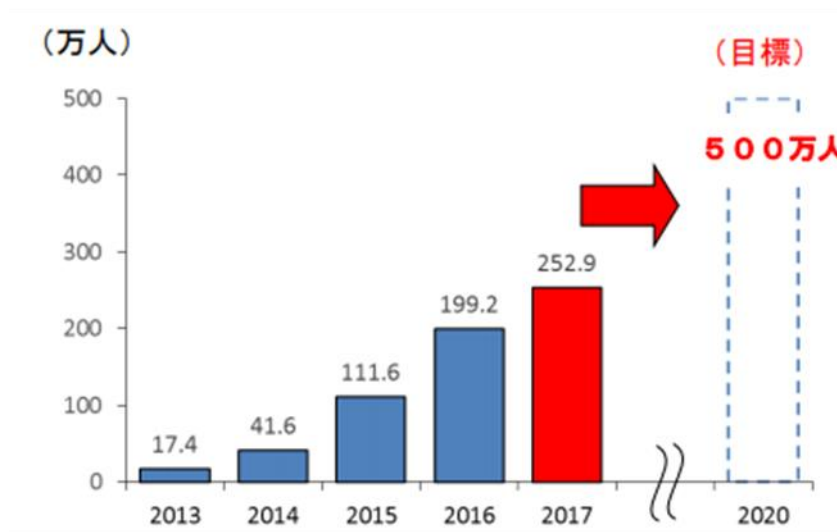
6月12日、国土交通省が2017年のクルーズ動向を発表しました。それによると、日本人のクルーズ人口、クルーズ船の寄港回数及び訪日クルーズ旅客数が過去最多を記録しました。日本人のクルーズ人口は、前年比6.7万人増加し31.5万人(27.0%増)。クルーズ船寄港回数は、外国船社運航のクルーズ船が2,013回、日本船社運航のクルーズ船が751回となり、合計で過去最多の2,764回、前年比37.0%増と顕著な伸びです。あわせて日本へクルーズ船で入国した外国人旅客数も、過去最多の約252.9万人(前年比27.0%増)。(参照※1、グラフa、グラフb)

グラフa クルーズ船寄港回数 2010年～2017年



出典元:国土交通省

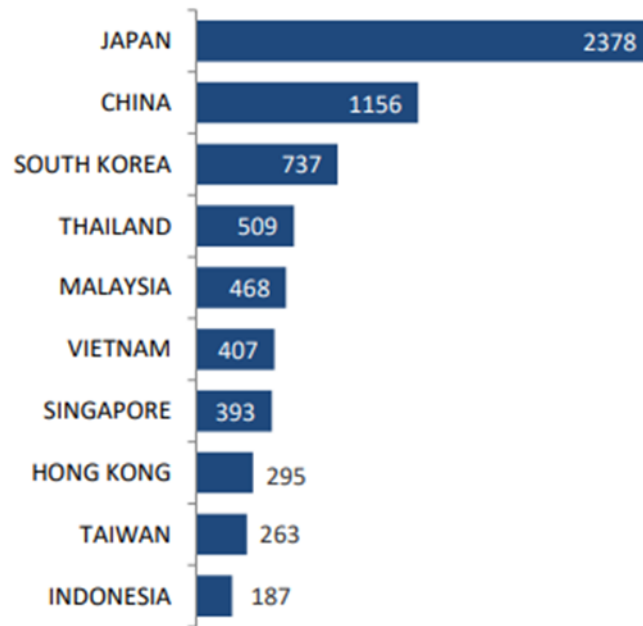
グラフb クルーズ船による日本への外国人入国者数(概数)



出典元:国土交通省

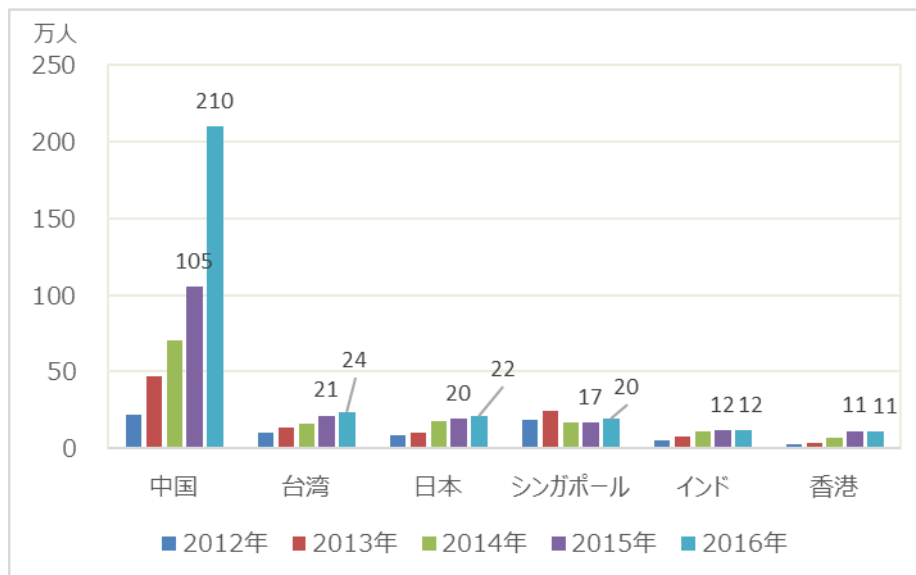
クルーズライン国際協会(Cruise Lines International Association、以下 CLIA)の見込みでは、世界の海洋クルーズ客数は、2018 年も 2,720 万人前年比約 5.4%増と堅調な伸びとなる予想です。世界的にクルーズ需要が高まっているようで、モナコを起点にラグジュアリークルーズを数多く運営しているシルバー・シー・クルーズが、5 月に発売を開始した 2020 年世界一周クルーズの予約数が、過去 5 年間で比較して記録的な伸びとなっていると発表しています。(参照※ 2)CLIA が 2017 年 9 月に発表した 2017 年アジアクルーズトレンドによると、アジアのクルーズ市場は、2013 年以降、目覚ましい成長を示しており、今後も高い成長が見込まれています。同レポートによると、2017 年のアジア全体のクルーズ寄港数は 7,196 回で前年比 29%増。特に東アジアに集中していて、68%を東アジアが占めています。中でも日本は寄港数 2,378 回でトップです。この寄港数は 2017 年 9 月レポート発表時点の見込み数で、中国の韓国渡航禁止令の影響で、実数はおそらく韓国が就航数を減らし、日本は増える恐れがあると CLIA は但し書きしていました。国土交通省発表した 2017 年寄港数は 2,764 回で、やはり CLIA の見込み数を上回っています。2012 年から 2016 年の 4 年間でアジア全体のクルーズ旅客数は、775,000 人から約 310 万人となり年平均 41%で成長しています。この主な要因は、やはり中国で、昨年だけでも前年に比べほぼ倍増の 200 万人に達し、2012 年以降の年平均成長率は 76%です。主要 5 市場の他の 4 市場も過去 3 年間の年平均成長率は二桁台で、香港が 43%、日本 27%、インド 25%、台湾 22%となっています。(参照※ 3、グラフ c、グラフ d)

グラフc 2017年 アジア寄港数ランキング(概算)



出典元: CLIA 2017年アジアクルーズトレンド

グラフd アジア各国のクルーズ人口推移 2012年～2016年



出典元: CLIA 2017年アジアクルーズトレンドのデータを基にアウン作成

※1 2017年クルーズ動向 - 国土交通省

http://www.mlit.go.jp/report/press/kaiji02_hh_000236.html

※2 シルバー・シー・クルーズ Travel Daily Media

<https://www.traveldailymedia.com/silversea-world-cruise-2020/>

※3 2017年アジアクルーズトレンド CLIA

<https://www.cruising.org/docs/default-source/research/clia-2017-asia-cruise-trends-report.pdf?sfvrsn=0/>